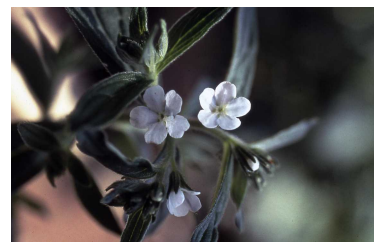


「ムラサキ」について調べるには

古く万葉の時代に蒲生野にて、額田王が大海人皇子にあてて詠んだ歌「あかねさす 紫野ゆき 標野ゆき 野守は見ずや 君が袖ふる」の紫野はムラサキを栽培している野、標野は御料地であった蒲生野を指しています。（『まるごと東近江百科』より）

東近江市はムラサキが群生する風景がよみがえることを期待し、この花を市の花として選定しました。近年では、絶滅危惧種であるムラサキを復活させる取組みが産官学連携でおこなわれています。



図書館の資料で調べる

◆『紫 紫草から貝紫まで』

竹内 淳子／編、法政大学出版局、2009年

ムラサキを栽培する人や、紫根染の技法を引き継ぐ人など、ムラサキに関わる人々をレポートしています。植物としてのムラサキだけでなく、色の観点からもレポートされています。

◆『薬草の科学』

佐竹 元吉／編、日刊工業新聞社、2013年

漢方薬の原料となる植物として、一覧に紹介されています。また、熱帯に蔓延する難病の治療薬開発の事例として、リューシュマニア症の治療薬にムラサキの入った漢方薬「紫雲膏」が有効であると紹介されています。

◆『むらさき染に魅せられて』

大河内 ただし／著、農文協、2012年

ムラサキ草の栽培と紫根染の研究に著者の取組みをまとめています。古代の文献から再現した紫根染の方法についても紹介されています。

◆『万葉の植物』

松田 修／著、保育社、1994年

カラー写真とともに、ムラサキという名前の由来や、万葉集の中に出てくる歌などを紹介しています。

◆『万葉植物事典』

山田 卓三、中嶋 信太郎／編、北隆館、1995年

万葉集に詠まれた植物についてまとめた事典で、額田王や大海人皇子らムラサキが詠まれた万葉歌について解説されています。後段では「万葉の植物考」として植物の生態や生息地などについても解説されています。

◆『近江植物風土記』

滋賀植物同好会／編、サンライズ出版、2011年

万葉集に詠まれたアカネやムラサキなど、人々の営みと深く関わってきた近江の植物の故事来歴と現状を紹介しています。

◆『染織事典』

中江 克己／編、泰流社、1987年

伝統染織についての基本的事項についてまとめられた事典です。

◆『草木染の事典』

山崎 青樹／著、三秀舎、1984年

植物としてのムラサキや紫染めについての項目があります。